

ティヴァ採種園研究施設の引渡しについて

森林総合研究所林木育種センターでは、ケニア国において、乾燥地でも良好な成長を示す郷土樹種の品種開発を目的とする国際協力機構（JICA）のプロジェクトに取り組んでいます。

具体的には、ケニア森林研究所（KEFRI）との連携の下で、ケニア国東部の乾燥地に採種園を2箇所設定し、優良品種候補木の植栽等を進めていますが、このうちキツイ県ティヴァにある採種園において管理棟などの関連施設が完成したことから、平成26年2月18日、寺田達志・駐ケニア大使ほか関係者出席の下、ケニア国政府への研究施設の引渡しが行われました。

この模様は現地の新聞（The People、2014年2月20日付）も取り上げており、森林率を現在の7%から2030年には10%まで引き上げることが政策目標の一つに掲げているケニア国政府が、乾燥地林業技術の開発を通じて当該国の持続的な森林経営を積極的に支援する日本国政府を高く評価していると伝えています。



寺田・駐ケニア大使とガターラ・ケニア環境・水・天然資源省保全担当事務次官による記念プレート除幕式



キツイ県副知事による記念植樹



12haに及ぶティヴァ採種園
（植栽作業は継続中）



採種園を一望できる観察塔

（注）写真は現地駐在の JICA 長期専門家提供